マラソン部の活動

地域連携室 佐藤 泰智

上戸町病院マラソン部は、現在計16名 で活動しています。今回は、8月に行わ れた五島夕焼けマラソンに計6名で参加 してきました。

当日は、雨の影響が心配されましたが、 時間になると小ぶりの雨でちょうど良い コンディションとなりました。今回は、 ハーフマラソン初めての参加者もいまし たが、無事参加者全員完走することが出 来ました。

完走後のBBQやそのあとも交流会も盛 り上がり、次は来年2月に行われる5時 間リレーマラソンへの参加を目指すこと を誓いました。







今年も例年通り、あみの目平和行進 や平和大行進、精霊流しなどが行われ ました。参加された皆様、猛暑のなか、 お疲れさまでした。

私もあみの目平和行進に参加する予 定でしたが、足腰を痛めてしまい断念 しました。日頃の運動不足がたたった としか思えません…。

最近、朝・晩は涼しくなり、夜にな ると外から 「チッチッチ…」 「リンリン リン…」と虫の鳴く声が聞こえてきて、 秋の気配を感じます。

秋は運動をするのに適していると言 われています。私も来年の平和行進に 向け、ウォーキングあたりから始めて みようと思う今日この頃です。(M·N)





交通アクセス

長崎バス・二本松口経由ダイヤランド行き「上戸町」バス停下車すぐ

救急からリハビリ・在宅まで安心できる病院をめざして 社会医療法人 健友会



五島夕焼

12

参

〒850-0953 長崎市上戸町4丁目2-20 TEL 095-879-0705 FAX 095-879-3388

TEL 095-832-5615 FAX 095-832-5616 http://www.kenyukai.or.lp

上戸町病院のHPもご覧ください。

上戸町病院

上戸町病院 地域連携室だより



社会医療法人 健友会 上戸町病院

すこやかとうい

2019.9月発行 第31号 発行元:上戸町病院地域連携室 発行責任者:三宅裕子

挨拶





浦川 伸弘 社会医療法人健友会 上戸町病院整形外科・リウマチ科

『全人的』とは、全人格を総合的にとらえるさま。人 間を身体・心理・社会的立場などあらゆる角度から判 断するさまを言います。全人的医療、看護、ケア、苦 痛などの用語が存在します。全人的医療は、言うは易 く行うは難しです。

医療者側は、あらかじめ、いくつかのシナリオを用 意して、それに当てはめながら医療を行いがちですが、 代社会に生きている人々にも憂いをいだきます。戦争 改めて患者中心に物事を進めるべきであることを、個 々戒める必要があります。

超高齢者社会を迎えて、すべての人が心に刻むべき 事があります。

それは、「高齢者は、余生を生きているのではなく、 今を生きていること。|です。

の尊厳が保たれるべき存在であることです。

他人が計り知る事が出来るはずもない多くの艱難辛 苦を経験して生きてきてるはずです。 私たちが、家庭 ・地域社会・医療現場などで常に尊敬の念を持って高 齢者に接することが出来れば、今の世の中も捨てたも のではないでしょう。

毎日のようにいじめ、自殺など暗く、悲しい事件や、 虐待、殺人など目と耳を覆いたくなる邪悪な事件が後 を絶ちません。遠い過去から延々と続き、これから先 も決して無くなる事のない様々な「差別」が根本にあ るからかも知れません。それに慣れさせられている現 は、言うまでもなく、全人的なものを完全に否定して いることを端に発しています。そこに莫大な利益を得 ている闇商人(いろんな国家の偉い人たちかも?)が 仕掛けるのを止めない限り、戦争は絶対になくならな いでしょう。

全人的に、周りの人に接することができる人が少し 長く人生を歩いてきた大先輩で、常に、人間としてずつ増えて行けば、この世を変えて行けると信じてい ます。

> 当院地域連携室には、そんな人達がたくさん集まっ ていますので、いろんな困りごとなどありましたら、 お気軽にドアを開けてお立ち寄りください。 心を込めて、誠実にご対応いたします。



シンボルマークの意味 桃色は、平和の象徴の鳩 緑色は、病院を囲む上戸町の自然 赤色は、病院で働く人達の情熱を表しています。 2011.5月に病院内で募集し、投票の結果、当選したシンボルマークです。



回復期リハ病棟の取り組み

離島への試験外泊同行

リハビリテーション部 部長 中島 千穂

「透析ができる回復期リハ病棟」は上戸町病院の 強みのひとつですが、そのニーズは市内にとどま らず離島にまでも広がっています。

今年2月に上五島病院から脳梗塞重度右片麻痺 の透析患者さんの紹介を受けました。透析リハは この間も多く経験してきましたが、本来ならば早 期に行う家屋チェックが出来ず、患者、スタッフ 共に自宅退院をイメージできない状況でした。そ こで、回復期の役割である「生活の場への橋渡し」 を行うために、病棟師長と担当セラピスト同行の もと、海を越えた試験外泊を行いました。現地で は単なる外泊にとどまらず、担当介護支援専門員 の呼びかけで関連スタッフが集まり、合同カンフ アや実際の環境調整・動作確認も行い、それぞれ の立場で「自宅退院」のイメージ作りができまし た。帰院後、患者さんはADLが大きく改善し屋 内監視レベルとなり、回復期リハの指標である実 績数44.6 (37以上が目標) で無事念願の自宅退院 できました。

離島からの紹介は、上戸町病院が「回復期I」 の施設として県下で認知された結果であり、回復 期スタッフだけでなく、内科医師、透析室も含め たチーム医療のたまものです。これからも「透析







ができる回復期リハ病棟」の強みを生かし、上戸 町病院の回復期リハ病棟ならではの活動を広げて いきたいと思っています。



将来の夢に向かって

~高校生・予備校生一日病院体験を開催~

医系学生支援課 課長 佐藤 昇

当院では今年も、7月29日~ 8月14日の期間で「夏の高校生 一日病院体験」、8月21日には 「予備校生一日病院体験」を開 催し、高校生一日病院体験には、 県下13校から76名、「予備校生一 日病院体験」には、1校から3 名の学生が参加しました。

当企画は毎年、学生の春休み と夏休みの期間を利用して開催 しており、将来、医療従事者を 目指している学生向けに、実際 に医療現場の見学や体験を通し て、進路を決める際の参考にし てもらい、将来的には、長崎の 地域医療を支える医療従事者へ 育って欲しいとの思いで開催し ています。

高校生向けの病院体験では、 医師コース・薬剤師コース・看 護師コースの3コースを設け、 コースごとに医師・薬剤師・看 護師が直接学生と関わり、実際 に医療機器に触れ、検査や血圧 測定、薬の調合などを体験しま した。職員からは、仕事内容だ けでなくやりがいや大変さなど についても話され、学生も真剣 に耳を傾けていました。

また当企画は、私たち上戸町 病院と共に地域で医療活動・ま ちづくりを行なっている長崎健 康友の会の会員さんにも毎年、 協力いただき地域で行なってい る友の会の取り組みの説明や夢 に向かって進む学生たちへエー

ルの言葉が贈られました。

参加した学生からは、「病院体 験に参加でき、医療について一 層興味が湧き、医師を目指す気 持ちが更に大きくなりました」 「今後の進路を考えるいい機会 となりました」などの感想が寄 せられました。

今後も様々な企画を通して、 学生の夢の実現に向けたお手伝





いを職員全体で取り組んで行き たいと考えています。

『いつでも元気』9月号「医者の言い分・患者の本音」欄に長崎健 康友の会連絡会会長の片山紗禧子さんの投稿が掲載されています。